

作成日 1995年 3月23日

改訂日 2015年11月 2日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	フロアオイル
供給者の会社名称	ペンギンワックス株式会社
住所	〒537-0021 大阪市東成区東中本3-10-14
担当部門	研究開発部
電話番号	06-6973-9130
FAX番号	06-6976-1456
推奨用途及び使用上の制限	業務用・屋内 木床用フローアオイル（白木、塗装された木床を除く）
整理番号	22- D-2217-07

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分外
 ※ 上に記載のない物理化学的危険性は、該当しない。

健康に対する有害性 急性毒性（経口） 区分外
 急性毒性（経皮） 区分外
 皮膚腐食性／刺激性 区分3
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B
 皮膚感作性 区分外
 生殖細胞変異原性 区分2
 発がん性 区分外
 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分2（肺）
 特定標的臓器毒性（反復暴露） 区分1（肺）
 吸引性呼吸器有害性 区分外
 ※ 上に記載のない有害性は、「分類できない」である

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 吸入すると有害
 軽度の皮膚刺激
 眼刺激
 遺伝性疾患のおそれ
 臓器（肺）の障害のおそれ
 長期にわたるまたは反復ばく露による臓器（肺）の障害

注意書き

【安全対策】

- ・ミスト、蒸気、スプレーの吸入をさけること。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面等を着用すること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
- ・暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物や容器を廃棄する時は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分名	含有量(%)	労安法 通知対象物	PRTR 法	CAS No.
石油系炭化水素	99~100	168 号	非該当	非公開
染料	微量	非該当	非該当	非公開
合計	100			

※ シックハウス・シックスクール配慮

シックハウス・シックスクールの原因としてあげられている厚生労働省指針値該当成分（13物質）については、これらを原料として使用していません。

※ 環境ホルモン対応

環境省「内分泌攪乱作用を有すると疑われる物質（65物質）」を使用していません。

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移し、安静・保温に努め、異常があれば医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣服、靴などは速やかに脱ぎ、接触した部分を水またはぬるま湯で十分に洗い流す。異常があれば医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗眼し、医師の診断を受ける。コンタクトレンズを着用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗眼する。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水で口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませ無理に吐かせず、速やかに医師の診断を受ける。被災者の意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である
初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 注水は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 消火方法 : 周囲の設備などに散水して冷却する。
消火作業の際には、風上から行き必ず保護具を着用する。
皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。
消火作業を行う者は、空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏及び有毒ガスから身をまもること。
火災発生場所の周囲に関係者以外の立ち入りを禁止する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 関係者以外の立ち入りを禁止し、作業者は適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
床に流出した場合は滑りやすくなるので注意する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。
- 封じ込め及び
浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）に吸着させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合には、土砂等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策
(局所排気・全体換気等)
- ・換気のよい場所で取扱う。
 - ・炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させない。
 - ・液が眼、皮膚、衣服などに付かないよう注意する。
 - ・取扱いの都度、容器を密閉する。
 - ・取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な取扱いをしない。
安全取扱注意事項	情報なし
接触回避	情報なし
衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な保護具（手袋、マスク、保護眼鏡等）を着用する。 ・取扱い後は、手・顔などを良く洗い、休憩所などに手袋等の汚染保護具を持ち込まない。 ・一度、容器から出した液は元の容器へ戻さない。
保管	
安全な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管する。 ・容器を密閉し、保管場所に施錠すること。 ・危険物の表示をして保管する。 ・保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。
安全な容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"> ・容器は破損、腐食、割れのないものを使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	:	ミストが発生する場合は、発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 取扱い箇所付近に洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
管理濃度	:	設定されていない。
許容濃度	:	
		日本産業衛生学会（2006年版） 3 mg/m ³ （鉱油ミストとして）
		ACGIH（2004年版） TWA 5 mg/m ³ （鉱油ミストとして）

保護具

呼吸用保護具	:	保護マスク等を着用する。
手の保護具	:	有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
目の保護具	:	保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	:	長袖作業着、保護服などを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観（物理的状态、形状、色など）	:	淡褐色透明液体
臭い	:	溶剤臭
pH	:	—
融点・凝固点	:	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	:	データなし
引火点	:	178℃ (COC)
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	:	上限 7% 、下限 1% （推定値）
蒸気圧	:	データなし
比重（相対密度）	:	0.85
溶解度	:	水に対する溶解性 … 不溶
n・オクタノール／水分配係数	:	データなし
自然発火温度	:	データなし
分解温度	:	データなし
粘度（粘性率）	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 通常の環境下では安定
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 直射日光のあたる場所、40℃以上の高温環境
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: LD50 5000mg/kg 以上（ラット）のため 区分外。
急性毒性（経皮）	: LD50 5000mg/kg 以上（ラット）のため 区分外。
急性毒性（吸入）	: データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	: 石油系炭化水素 … 区分3
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	: 石油系炭化水素 … 区分2B
呼吸器感受性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	: 石油系炭化水素は、感受性なしとの結果が得られている。
生殖細胞変異原性	: 石油系炭化水素 … 区分2
発ガン性	: 石油系炭化水素が IARC では、グループ 3（ヒトに対して発ガン性について分類できない物質）に分類されている。… 区分外
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 石油系炭化水素 … 区分2（肺）
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 石油系炭化水素 … 区分1（肺）
吸引性呼吸器有害性	: 40℃での動粘性率が 20.5mm ² /s またはそれ以下の炭化水素に該当しないため、区分外。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	: データ不足のため分類できない。
水生環境有害性（長期間）	: データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データ不足のため分類できない。
その他	: データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	① 本液を廃棄する場合は、内容を明示した上で免許を持った産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 ② 公共水域（河川、湖沼など）への排出は絶対に避ける。
汚染容器・包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、免許を持った産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内法規制

陸上輸送	:	消防法	危険物第4類第3石油類	非水溶性	危険等級Ⅲ
海上輸送	:	該当しない			
航空輸送	:	該当しない			
国連分類	:	該当しない			
国連番号	:	該当しない			

輸送の特定の安全対策及び条件 :

- ①指定数量以上を車両で運搬する場合は「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。
- ②第1類及び第6類の危険物及び高圧ガスとの混載は禁止。
- ③運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
- ④その他関係法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

- | | | |
|-----------------|---|--|
| ①労安法／有機溶剤中毒予防規則 | : | 該当しない |
| ／通知対象物 | : | 鉱油 (168号) |
| ②消防法 | : | 危険物第4類第3石油類 非水溶性液体
危険等級Ⅲ、指定数量 2000L |
| ③毒物及び劇物取締法 | : | 該当しない |
| ④船舶安全法 | : | 該当しない |
| ⑤航空法 | : | 該当しない |
| ⑥P R T R法 | : | 第一種指定化学物質 : 該当しない |
| | : | 第二種指定化学物質 : 該当しない |

16. その他の情報

参考文献

- ・GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) JIS Z 7253 : 2012
- ・GHS対応ガイドライン 一般社団法人 日本化学工業協会 (2012年6月)
- ・GHS分類結果データベース 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

参考資料

シックハウス・シックスクールの原因としてあげられている化学物質

①厚生労働省指針値該当成分 (13物質)

ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、フタル酸ジ-n-ブチル、クロルピリホス、スチレン、テトラデカン、ダイアジノン、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、アセトアルデヒド、フェノブカルブ

②学校保健法：学校環境衛生の基準 (ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物)

ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン

本資料は、信頼し得ると考えられる資料並びに測定結果などに基づき一般的な取扱いを前提に作成したものです。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切なる処置を、お取り下さるようお願い致します。